

## 〈熊本支部例会事前抄録〉

日時：2018年11月27日（火）19:30～

会場：添島歯科クリニック研修室

－ 一般講演抄録 1 －

### デジタル時代に考えたいダイレクトボンディングの有用性

陶山歯科医院 陶山 新吾 〒830-0023 福岡県久留米市中央町 11-9

#### ■略歴

2004年 福岡歯科大学歯学部卒業

2007年 川崎歯科医院勤務 2013年 陶山歯科医院事業継承 所属団体

#### ■所属団体

日本臨床歯科医学会 熊本支部

日本口腔インプラント学会

日本歯周病学会

#### ■抄録

近年歯科医療においてもデジタルテクノロジーの進歩は加速しており、様々な分野に応用されている。修復治療においても、CAD/CAMテクノロジーの応用により多くの恩恵を受けており、今後さらに精度をあげ普及していくことは間違いない。

ダイレクトボンディングは、アナログな治療方法であるため術者の経験や技術の影響を受けやすい。特に隣接面を含むⅡ級窩洞は、隣接面コンタクトの付与や鼓形空隙の付与そして咬合接触接触点の付与が必要となり難易度は高くなるため間接法を選択されることが多い。

今回、患者は33歳女性。2016年4月に上顎左側第一大臼歯のインレー脱離を主訴に来院。臼歯に多数認められた不良修復物と二次カリエスに対してダイレクトボンディングにて修復治療を行った。

直接修復治療及び間接修復治療の利点・欠点からダイレクトボンディングの有用性について考察したい。この症例に関する利益相反はありません。